

研究テーマ

「差別や偏見をもたない児童を育成するための実践の工夫」

—自分の大切さとともに、みんなを大切に—

1 研究の実践

(1) 主題設定の理由

本校の児童は、元気で明るく素直である。しかし、些細なことから友だち同士でのトラブルや軽はずみな行動などが見られることがある。これらは、学級や友だち同士の人間関係の希薄化、家庭での道徳性の低下などの原因が考えられる。

そのため、まず、学校教育においては人権の知識理解をいっそう深めると共に、児童一人一人が人権感覚を十分に身に付けるための指導をいっそう充実することが必要である。

さらに、人権教育が目指すものを明確にし、教職員がこれを十分に理解して計画的に進めることが重要である。

そこで、本校では自他を大切に、差別や偏見をもたない児童の育成を研究主題とした。

(2) 研究のねらい

学級を基本として、学校教育全体で取り組むことを重要と考える。そして、自分を大切にす人権感覚を育成することにより、自他を認め合う力を付ける支援をし、人権教育の啓発・差別や偏見のない児童を育成することである。

学校の教職員の研修を行うことにより、児童の一人一人についての理解を深めることとともに、人権についての理解と啓発を促し、学校全体で児童の人権教育にあたる。

(3) 実践例

ア 学級活動の指導例から

1年生では、小学校への入学・学校生活の始まりという観点ではとても大事な学年である。人権を尊重する教育として具体的に友だちや自分の良いところをワークシートに書いたり、学級で話し合ったりしていじめや平等・偏見のない友だちの接し方をスキルとして学習を続けてきた。例えば、「友だちに対して優しくしよう」などの意味合いの題材を用意して、みんなの感情・気持ちを話し合いソーシャルスキルとして、どのようにして友だちに接したらいいのかを考える指導をしてきた。また、「ごめんね」「ありがとう」という機会を見逃さず、きちんと言うことができたかどうかを一人一人の児童に訴えながら考える指導をしてきた。その結果、「ごめんね」・「ありがとう」と言うスキルを多く練習した。今後に生かせるように継続的に振り返りをしていくという「ごめんね」と言う実践力につながっていくものである。自分をよく知ることで、友だちに対しての人権や優しさがわかり合えるのである。

イ 人権ビデオ視聴から

児童は、今年も1学期に人権ビデオを視聴した。特に、いじめに関する内容のものであった。題名は「ぼくだってきれいにしたいんだ」(3～6年)と「よっちゃんのふしぎなクレヨン」(1・2年)の2本を視聴した。耳からの音声理解が苦手な児童には、視覚的に理解することができたと思う。アニメーションのビデオであり自分の身近な出来事のようにとらえることができた。児童は、どの学級でも静かに真剣に視聴できた。それだけみんなの周りに同じ事があるのだと思うと、共感できたのだと思う。児童はみな「いじめ」は悪いことだという内容の感想をもち、人権に対する意識が高まった。

ある2年生の児童は、「自分がいじめられたら、先生や大人の人に言おうと思います。」という感想を書いた。自分だけで閉じこもるのではなく、多くの人の意見や話を聞こうというように気づいてきている。

## 「低学年のビデオ視聴の様子」



## 人権コーナー・掲示板—環境面で ☆ 環境面で・・・感想文の掲示



### 2 校内研修の取り組み(教職員に対して)

本校では、毎年の夏季休業中に人権教育の研修を位置づけている。今年は、8月2日の市人権研修で行われた古河四小の倉持校長の講演をビデオに収録しました。そのビデオと資料を久慈小の職員分印刷して、8月21日にパソコン室にてビデオを映写しながら、大事な事項については補足説明しながら研修を行った。

実際の講演をした先生の画像と言葉を映すことにより、より研修の臨場感と緊張感をもって研修できた。先生方は、資料にメモを取りながら真剣にビデオを見入っていた。やはり、「人権教育」や「いじめ」等に特に意識を高くもち、児童の教育に当たっていることであると思う。

後に、人権研修会が「ホリゾンかみね」で行われた折りに、自校の校内研修を紹介する機会があり紹介したところ、県の人権啓発部の方に「工夫された研修です」という感想を得たことがあった。

一つの研修報告であったが、人権教育の大切さを今後もより工夫して校内の先生方と一緒に研修を重ねて実践していこうと考える。

### 3 研究の成果と今後の課題

人権教育についての実践から、各学級の活動や道徳の時間に、「友だちとどうふれあうか、自分はどうしたらいいか。」等、自分と友だちと深く考えることを多く取り上げて指導してきた。その結果、自分のことをよく知った上で、友だちに対しても言われたら嫌なことやされたら嫌なことを多くの児童が自覚してきた。人権感覚の成長が見られるようになってきている。

さらに、人権ビデオの視聴を通して、視覚的にいじめや偏見をもつことはとてもいけないことだということを理解できたと思う。さらに、児童に対しては人権教育を絶えず働きかけて、「いじめはいけないこと、人を傷つけることは悪いこと。」というように人権意識を高められるようにしたいと思う。そうした考えが身につくと行動にも一段と表れてきているように感じる。

こうした人権教育は、学校全体や全児童を対象として生活の中で行うものであると思う。こうした感覚をもつことで人間関係がよりよくなっていくものである。これからも継続的に振り返りと指導をしていくとともに、学校だけでなく地域や保護者にも協力してもらい、人権教育の理解と啓発を広めていきたい。